

中山間地域の特徴を活かした枝物 1 億円産地づくり

県北農林事務所常陸大宮地域農業改良普及センター

J A 常陸大宮地区枝物生産部会では定年帰農者が中心となり、中山間地域の耕作放棄地を活用して枝物を生産しています。生産者数、栽培面積は年々増加しており、枝物は中山間地域の農業振興に不可欠な品目として注目されています。

そこで産地の競争力を高めるため、普及センターでは関係機関と連携して、サクラをはじめとする商品数の拡大及び高品質かつ安定的に栽培するための技術課題の解決、新規就農者の確保・育成に取り組みました。

「奥久慈桜」の早期開花技術を確立

ハナモモに次ぐ主力品目として「奥久慈桜」を推進するため、正月需要期の有利販売を目指し、早期開花技術確立に取り組みました。

8℃以下の低温処理と休眠打破のシアナミド処理を行うことで、目標とする12月20日頃の年内出荷ができることを確認しました（写真1）。

その結果、「奥久慈桜」を導入することで、15万円/10aの所得向上につながることを期待されます。



写真1 奥久慈桜 12月20日の開花の様子



写真2 研修指導責任者（中央）と若手枝物専作農家

若手枝物専作農家の確保・育成

枝物部会員（109名：H30）は定年帰農者が多く、高齢者の割合が約55%と高い状態です。普及センターはJ A部会と連携し、若手新規就農者確保・育成の体制を整え、技術指導や農地取得の相談を行っています。平成30年度までに2名の若手新規就農者が枝物専作で就農し、普及センターは安定した所得確保に向けた技術支援を行っています（写真2）。今後もさらに2名の若手が就農する予定であり、枝物生産の魅力が広まりつつあります。

枝物の良品生産

枝物の良品生産に向けた病虫害防除対策として農薬適正使用についての講習会を開催しました（写真3）。なかでも、ドリフト対策や効果的な除草剤の活用による労力削減（約17%）などに関心が高まりました。適期防除の推進を通して、良品生産に取り組んでいます。



写真3 農業講習会